

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 5日
研究・研修課題名	タブレットの活用による環境ラウンド記録の効率化
研究・研修組織名 (所属)	感染制御部
研究・研修責任者名 (所属)	坂根圭子
共同研究・研修実施者名 (所属)	佐野千晶、城有美、森山英彦、石飛映美

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果 (活動の効率化)
該当者名(所属)	
学会名(会期・場所、認定名等)	
演題名・認証交付先等	
取得日・認定期間等	

目的及び方法、成果の内容

①目的

病院の感染対策において、診療報酬上の義務として多職種による週1回以上の現場のラウンドを行っている。現在、紙ベースの環境ラウンドチェック表を用いて、環境をチェックし、デジカメで現場の写真撮影を記録し、その結果をラウンド終了後に、感染対策支援システムへ手入力しているが、1回のラウンドにつき、記録時間は1～2時間と長時間を要している。当初は、感染対策支援システムと連動した環境ラウンドアプリケーションを使用し、環境ラウンド結果をリアルタイムにタブレット端末を介して行うといった業務効率化を目的として申請した。しかし、実際に運用をおこなうと、Mac tabletでの環境ラウンドアプリケーションは、感染対策支援システムサーバーとは、さまざまなアプローチを試みたものの、OSの違いにより連動が困難なことが明らかとなった。このため、外部評価において指摘を受けた手指衛生状況の改善にMac tabletを利用することとした。具体的には、現場で直接チェックできる手指衛生観察アプリを使用し、WHOが提唱する手指衛生の5つの場面（患者に触れる前、清潔操作の前、患者に触れた後、体液に曝露したとき、患者周囲の環境に触れた後）での手指衛生の現状を把握し、啓発に活用することとなった。申請当初の目的とは異なるが、タブレット端末手指衛生観察アプリによる手指衛生状況の改善を目的とする。

②方法

病棟等の現場の手指衛生状況のチェックにタブレットを利用した。

1. 1回のラウンドで現場に行く2名分のタブレットを購入した。
2. タブレットへヘルモ社製の「手指衛生観察アプリ」をインストールした。
3. 感染制御部スタッフ2名で病棟等ラウンド時に、5つの場面の直接観察により、手指衛生状況をチェックした。
4. データの蓄積状況により部署ごとおよび職種別の遵守率を算出し、部署にフィードバック予定である。

③成果

紙記載を、ラウンド終了後にデータ入力する時間がショートカットでき、業務の効率化がはかられた。手指衛生観察アプリは、平成31年2月から使用開始したため、まだ母数が不足しており、部署へのフィードバックには至っていないが、部署ごと、および職種別に評価でき、遵守率およびグラフ化が可能であるため、デジタルデータとして保存・管理・活用できる。また、直接観察を重ねるごとに職員の意識の向上が見受けられ、手指衛生場面が増えてきたことは直接観察の効果といえる。今後も継続して活用し、アルコール手指消毒剤の使用量とあわせて各種会議等でデータのフィードバックを行っていく予定である。また、Macアプリケーションを感染対策支援システムへ連動できるように、メーカーへ要望を伝えている。

